

# 日本近代文学会 12月例会

〔日時〕 十二月一日(日)

午前10時～午後5時

(※昼休憩：午後一時～二時)

〔会場〕 日本大学文理学部 三三三館

国際研究集会 ― 日本近代文学のインターフェイス ―

第一会場：三三〇四教室〔個人発表〕

(午前) 午前10時～午後一時 (以下同様)

明治二〇年前後の小説におけるメタレプシス

― その役割と文学史上の位置づけ ―

「敗者の美学」としてのドーデを読む

透谷における「鏡」

樋口一葉の作品におけるジェンダー観の変遷

― 物語論・言語行為論の視点から ―

明治新俳句における映画性 ― 子規と非焦点的「界面現象」の美学 ―

(午後) 午後二時～午後五時 (以下同様)

夏目漱石『文学論』の位相

― 同時代における英語圏の文学理論・芸術論との比較・対照から ―

不機嫌という気分と解釈共同体

― 『夢十夜』・『道草』と『結婚狂詩曲』を中心に ―

「自己本位」の言語観 ― 谷崎潤一郎『文章読本』と李泰俊『文章講話』

〈媒体〉の源泉 ― 典拠

― 谷崎潤一郎『呪はれた戯曲』をめぐる ―

駆け引きとしての読書 ― 谷崎潤一郎を読む

Anne Bayard-Sakai

Nicolas MOLLARD

山根祥子

楊 穎

笹川 洋子

坂口 周

木戸浦豊和

張 芸

李 漢 正

福岡 大祐

Anne Bayard-Sakai

第二会場：三三〇四教室〔個人発表〕

※第二会場のみ、終了時刻が午後五時四〇分となります。

(午前) 芥川龍之介の翻訳作品「クラリモンド」における、

ラフカディオ・ハーンの影響

― 那虎彦の海外戦略 ― その背景と評価をめぐる ―

宮沢賢治「風の又三郎」論

― 風野又三郎と高田三郎、二人の三郎の物語

長島愛生園の女性達

― ジェンダー、ヒロインと一九三〇年代のハンセン病療養所

一九三〇年代の中国認識

― 雑誌『中国文学月報』(『中国文学』)を中心に ―

他者に到達できるか

― 留日の中国知識人を描く作品を中心に

戦時期の文学賞と「外地」

― 芥川賞と朝鮮芸術賞を中心に

植民地文人たちの「文化接統」と「発語行為」についての類型化

― 朝鮮と台湾における多民族が参加した言語・文学・

出版関連座談会を中心に

「ヨーロッパ」という妄想

― 多和田葉子の旅物語をめぐる ―

小川洋子の日常と身体 ― カレンダー、日記、食べ物の真実

第三会場：三三〇三教室〔パネル発表〕

植民地／帝国の文学のネットワーク

― 「日本語作家」張赫宙・金史良の再検討を通じて

帝国日本の男性臣民 ― 抑圧と暴力の諸相

第四会場：三三〇三教室〔パネル発表〕

境界の危機 ― 読者・表象・敵対性

第五会場：三三〇三教室〔パネル発表〕

東アジア探偵小説史の展望と可能性

〈当事者／非当事者〉をめぐるポリテクス

第六会場：三三〇四教室〔パネル発表〕

〈韓流〉と〈日流〉の先にあるモノ

― 創造と変容をめぐるいくつかの事例

BLの中の世界／世界の中のBL

第七会場：三三〇三教室〔パネル発表〕

「上海遊記」 ― 一九二〇年代上海をめぐる欲望とメディア

第八会場：三三〇四教室〔パネル発表〕

越境するメディア ― 東アジアへのまなざし

第九会場：三三〇四教室〔パネル発表〕

渡辺直紀・波田野節子・沈元燮・金在湧・Kyung-Hee Choi・John Treat・崔泰源

旅するテキスト ― 言葉とイメージの移動と変貌

HOLCA Irina · Yin Zhixi · CARDI Luciana · PASCA Roman

日本近代文学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-1-6 井上ビル6F B号室

日本近代文学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-1-6 井上ビル6F B号室

日本近代文学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-1-6 井上ビル6F B号室

日本近代文学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-1-6 井上ビル6F B号室

日本近代文学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-1-6 井上ビル6F B号室

日本近代文学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-1-6 井上ビル6F B号室

日本近代文学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-1-6 井上ビル6F B号室

日本近代文学会事務局